

12.20
政府
東電交渉

損害賠償を削り、被害者を分断し、 原発再稼働に巨額援助

2020年以降の避難区域・出荷制限品への賠償示せず

福島県農民連は12月20日、「安倍政権と東京電力の福島切り捨ては許さない」と、政府・東電への申し入れを行い、福島県から100人を超える農家に参加しました。

国会内で行われた交渉では

▽日本原子力発電への、東海第2原発の再稼働に向けた2200億円の資金援助を中止すること

▽避難区域内農家や出荷制限作物について、被害がある限りは2020年1月以降も賠償すること—など

を求めました。

昨年年初から避難区域と出荷制限品目の賠償方法の見直しを迫られていたにもかかわらず、2020年以降の賠償方法は示されませんでした。

避難区域の賠償にあたっては、「営農存続の意志確認」をするとか、これまでに支払った賠償

金からこの3年間に得た収入を相殺するなど到底認めがたい内容が提示されています。

葛尾村で40年ぶりに日本共産党の村議に当選した三瓶仁一さんに政府東電交渉に参加した感想を寄稿いただきました。

農民連の政府・東電交渉に初めて参加させていただきました。交渉全体を通じて加害者である政府・東電が誠意ある回答を示さないことでした。

私は、ADR(訴訟手続によらない紛争解決方法)を経験しています。最初は、弁護士に頼みましたが勉強不足で頼りがいかなかったため、そのあと自分でADRで交渉してきました。最初の東電の代理弁護士には誠意を感じましたが、そのあとの代理弁護士は高圧的になってきたのでADRをやめました。常に交渉の中では因果関係に悩まされてきました。加害者の東電が何を根拠にしているのか、いつも不愉快に感じてきました。

私の村でのキャッチフレーズは、村に戻った人も避難先で暮らす人も同じ葛尾村民です。最後まで村民に寄り添って頑張っていきたいと思えます。

東海第二原発再稼働へ東電が巨額・2200億円を支援

東京電力ホールディングスは、日本原子力発電(原電)が所有する東海第2原発(茨城県東海村)再稼働のための資金支援を正式に決定しました。再稼働に向けた「安全対策」費約3500億円のうち、東電が約2200億円を負担するとされています。



東電は2011年に福島第1原発事故を起こしたことへの反省もなく、甚大な被害を受けた福島県民への賠償責任を果たしていません。その会社が原発を再

稼働させるために他社に巨額な資金支援を行うことなど論外です。

東電の姿勢には一片の道理もありません。8年7カ月前の重大事故によって、いまも4万人以上の故郷に帰れず、事故収束も見えない未曾有の被害をもたらしたことの反省がまったくありません。

ふるさとを破壊され、生活や生業(なりわい)を奪われた人々への東電の冷たい姿勢は、賠償を迅速にすすめるために集団で申し立てた「裁判外紛争解決手続(ADR)」の和解案を拒否していることに示されています。加害者として責任を取らず、自社の柏崎刈羽原発(新潟県)の再稼働の推進だけでなく、他社原発まで動かそうというのは許されません。東電がやるべきことは被害者への賠償をしっかりと行うとともに、収束と廃炉、除染などに最後まで責任を果たすことです。

自主避難者は、「(福島県内に)居住する住民の心情を害し、ひいては我が国の国土に対する不当な評価(の原因)」
群馬訴訟の控訴審の第7回口頭弁論・国側が書面で主張

東京電力福島第1原発事故に伴い、福島県から群馬県に避難した住民が東電と国に損害賠償を求めた群馬訴訟の控訴審の第7回口頭弁論が17日、東京高裁(足立哲裁判長)でありました。損害論について原告側と国側が書面で主張しました。国側は準備書面で、政府による避難指示区域外

からの自主避難者について、2012年1月以降の避難継続の相当性を肯定して損害発生を認めることは「避難指示区域外に」居住する住民の心情を害し、ひいては我が国の国土に対する不当な評価となる「から」容認できない」と主張しました。問答無用で国に従えといわんばかりの暴論です。

農民連フラッシュ flash

女性の力で農民連を大きく

1月10日猪苗代観光ホテルで第26回女性部協議会総会が42人の参加で開かれた。持続可能な社会を繋ぐ環境に配慮した取り組みや消費税引き下げの運動に取り組むなど暮らしを守る主体となることを提案、「たねと私の旅」上映では遺伝子組み換え作物の問題と家族農業の大切さを学び、懇親会ではお楽しみ抽選会や歌や踊りで盛り上がり、女性のしなやかさと農民連を大きくすることを確認した総会となった。



福島県農民連青年部 第26回総会

2020年1月12日、福島市のアートスペース月光醤油にて、福島県農民連青年部第26回総会が行われました。福島県内から11名が集まり、前半はみんなでわいわい鍋を作りながらの交流会。若手生産者同士の情報交換などで盛り上がりました。後半は第26回総会が行われ、2019年度の活動報告や本年度の活動方針などについて討論が交わされました。



太陽光発電用地募集

太陽光発電用地をお貸しいただける方を募集しています。

- ① 約1000~2000㎡の遊休地
- ② 日当たりがよい
- ③ 宅地、雑種地、林地、原野などの地目の土地
- ④ 賃貸条件:100円/坪(年)



ご連絡いただければ、現地を確認させていただきます。

【連絡先】福島県農民連産直農業協同組合 担当:佐々木健洋
Tel 024-546-7229 fax 024-546-8804
メールアドレス:stake@vmail.plala.or.jp